

議員活動資料

■2005/06/25 (土)

## 早稲田大学公開講座に参加して

今日は、「早稲田大学創立 125 周年記念・エクステンション講演会」が諏訪市のホテル成田屋で開かれるということで、「聴講券」を入手できました。同僚の丸山久雄議員と女房三人で聴講するために諏訪に出向きました。

北川正恭（きたがわ・まさやす）教授は、三重県知事時代に三重県の行財政改革を断行したことは誰でも知っていることなので省きますが、私に於いてラッキーだったことは、先日地方自治政策課題研修会に参加して、村尾信尚（むらおのぶたか）氏（関西学院大学教授）の講演を聴いて、本日、北川教授のお話を聞いたことが相乗効果を発して、極めて立体的に理解が出来たかと思えます（村尾教授については、北川知事時代の三重県の総務部長であられた人であり、6月21日の「長野県議会議員研修に参加して」に記してありますのでご参照ください）。

北川教授は、講演の中で何遍も「立ち居を替える」言葉を発せられました。公共経営（パブリック・マネジメント）は、管理から経営へ意識を変換し、首長も議員もマニフェストを主権者（有権者）に示して、目的達成度を計ることが必要だとも！

地域経営とは、一羽の蝶が舞い、共鳴した蝶が2となり、4となり8となる。これがつぎつぎにはばたけば、首長（議員）＜職員＜住民が大きいうねりとなって地域の経営が成り立つこととなる。そして、これらをならしめるキーワードは情報提供であると締めくくられた。愈々、須坂が蝶々にならないかと！

早稲田大学の学生でなければ聞けない貴重な講義を、一介の市議が聴けたことを娘に感謝したい。帰りの車の中であれこれと考えたことですが・・・・・・

早稲田大学は、北川教授の言われる「情報公開から一步出て情報提供」を実践している大学であると気づきました。即ち、大学の生き残りをかけて、言わば「大学の経営」の変革を図っているのである。

これからは大学の倒産や閉校が容赦なく大学を襲うことは周知の事実であります。地方自治体（県・市町村）も亦然り。なるほど早稲田が大学院に公共経

営研究科を設けたことも領けます。さすが早稲田大学！私学の雄と感心した次第です。

帰り際、北川教授の著書に署名をお願いしたら、快く署名を賜ったうえ、「一緒に勉強しましょう」と、温かく声をかけて頂きました。

帰りの車中で、三人三様の評価がなされたが、言えることは、今日の講演によって北川イズムは、須坂に三羽の蝶を羽ばたかせたと言える印象であった。大変有意義な一日となりました。